

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,346	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,346	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス 総 排 出 量	2,450	t-CO ₂	2,450	t-CO ₂	2,346	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0.0	%	4.2	%		%
温室効果ガス みなし総排出量					1,473	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					39.9	%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当りの 排 出 量								
削減率（対 基準年度）				%		%		%
原単位当りの みなし排出量								
削減率（対 基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

温室効果ガス排出量が4.2%の削減、非化石証書みなしで39.9%の削減となった。
ガソリン車両台数の減少による減少要因のほか、館内において専有部はグループ全体の環境行動計画に沿って省エネの意識は高く、共用部はビル側として追加施策の手打ち感もあって現行の施策を周知、継続した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房・換気①	<ul style="list-style-type: none"> ■長期休暇時に専有部、共用部空調をOFFにする ■巡回による空調の消し忘れの防止 ■21時以降の冷温水ポンプの運転停止 ■専有部内のAHU湿度運用変更（通期40～45%→夏季：55% 冬季：45%）。 ■ナイトバージ機能活用を推進 	左記運用の継続的実施。	左記内容を継続中。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房・換気②	<ul style="list-style-type: none"> ■共用部系統の空調機（AHU）の除湿運転を中央で適宜停止し、再熱除湿の冷温水削減。 ■夏季空調起動時の冷房負荷軽減。 ■冬季、食堂厨房内の空調を常時OFF ■大会議室利用時は終了15分前に中央側で強制的に空調OFF。 	左記運用の継続的実施。	左記内容を継続中。
省エネルギー・省資源の推進／照明①	<ul style="list-style-type: none"> ■長期休暇時に専有部、共用部照明をOFFにする ■巡回による照明の消し忘れの防止 ■専有部内の照度センサー活用の推進。 ■外や周囲が明るい場合にはオフィス内の照明出力を下げる。 ■共用部通路照明間引き 21時以降館内照明 	左記運用の継続的実施。	左記内容を継続中。
省エネルギー・省資源の推進／照明②	<ul style="list-style-type: none"> ■長期休暇時に専有部、共用部照明をOFFにする ■巡回による照明の消し忘れの防止 ■専有部内の照度センサー活用の推進。 ■外や周囲が明るい場合にはオフィス内の照明出力を下げる。 ■共用部通路照明間引き 21時以降館内照明 	左記運用の継続的実施。	左記内容を継続中。
省エネルギー・省資源の推進／その他	<ul style="list-style-type: none"> ■入退館時間の制限（原則7：30～21：00） ■トイレの暖房便座、手洗いの温水を中間期（6～10月）はOFFにする ■給湯機を節電モードにする ■長期休暇時にエレベーター、自動ドアの稼働台数減。常時の稼働台数も1台減でローテーション 	左記運用の継続的実施。	左記内容を継続中。
省エネルギー・省資源の推進／その他	<ul style="list-style-type: none"> ■燃費管理によるエコドライブ推進を行う。 ■社用車のEV化を検討していく。 ■電力について、当社グループの発電所由来の再エネ電力のトラッキング付非化石証書によるCO2オフセットの継続。 ■入居者への夏季・冬季省エネ協力要請の連絡通知 	左記運用の継続的実施。	左記内容を継続中。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度		(2030年度)	
使用電気全体に占める非化石電気の比率	117.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)	
電力			t-CO ₂
熱			t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)	
非化石証書		873	t-CO ₂
			t-CO ₂
			t-CO ₂
			t-CO ₂
			t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

873	t-CO ₂
-----	-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

0	日
---	---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

入居中の大和ハウスグループ全社を対象に、社用車のEV化推進策として、大和ハウスグループ専用のEV充電設備を2025年度内に設置完了予定（施工中）。ルール整備を進めながら遅くとも2026年4月からの稼働を目指す。当初の稼働車両数は少ないと思われるものの、これをトリガーにグループのEV車導入の促進を図る。
そのほか、新たに中央監視のAI化も検討中で、さらなる省エネの可能性については積極的に情報を収集し、前向きに取り組んでいく。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

特に予定なし。
※環境保全の日に限らず、できる施策は「常時・即」全力で取り組むというビル運営方針です。